

年頭挨拶



国土交通省港湾局長
中尾成邦

平成19年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆様には平素より、私どもの港湾行政の円滑な推進につきまして多大なるご理解及びご協力を賜っておりますことに対しまして、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

我が国を取り巻く状況を見ますと、中国をはじめとするアジア地域の経済成長は著しく、世界における生産拠点、消費市場としてさらに発展するなか、国際分業の進展など我が国とアジア地域の経済交流はますます拡大しています。また、国内では景気回復等に伴い産業立地の国内回帰といった動向も見られます。

このような状況のもと、我が国産業の国際競争力強化や国民生活の向上に大きな役割を果たしている港湾において、物流改革を推進していくことが不可欠です。このため、スーパー中核港湾において、平成22年までにアジアの主要港を凌ぐコスト・サービス水準の実現に向け、次世代高規格コンテナターミナルの形成、メガターミナルオペレーターの育成、埠頭公社改革を引き続き推進するとともに、コンテナの搬入の安全向上と効率化などを図ってまいります。また、アジア地域とのシームレスな物流圏を構築していくためのターミナル機能の向上や、港湾サービスの高度化・活性化を図るための港湾の情報化、港湾運送事業に係る規制緩和の円滑な実施に取り組んでまいります。さらに、多目的国際ターミナルの整備により安定的・低廉な輸送を確保し、地域の経済と雇用を支え、地域の活性化の促進に取り組んでまいります。

一方、より安全で安心できる国民生活を確保する観点から、全国各地で切迫度の高まりが懸念されている大規模地震の発生に備え、基幹的広域防災拠点の整備を進めるとともに、関係者との連携協働体制の構築等の取り組みを推進します。さらに、全国各地の耐震強

化岸壁についても緊急整備プログラムに基づいて、その整備を一層推進してまいります。また、津波あるいは台風等高潮・高波による被害を最小限に抑えるため、ゼロメートル地帯等における緊急津波・高潮対策やGPS波浪計を活用した沖合波浪観測網の構築とその活用の検討など、ハード・ソフト一体となった対策を推進してまいります。港湾の保安対策についても、諸外国における港湾保安対策の動向を踏まえ、国内旅客船およびフェリーターミナルにおける保安対策の強化等、関係機関と連携・協力した水際対策・危機管理体制の強化に引き続き積極的に取り組んでまいります。

また、本年4月より新たな港湾の施設の技術上の基準を運用することとしております。これにより、設計分野の創意工夫が可能となり、より経済的な港湾の整備が推進されるものと考えております。

さらに、平成19年度には港湾所在市町村等の知恵と工夫をこらした取り組みを支援するため、「みなと振興交付金」を創設することとしております。当制度の活用も図りつつ、循環型社会の形成・豊かな港湾環境の次世代への継承、活力ある地域づくり、みなとの資産・交流機能を活かした観光振興への取り組みなど港湾あるいは海岸に対する様々なニーズにきめ細かく対応しながら行政を進めていきたいと考えています。

以上、新しい年を迎えた私の所信の一端を申し述べましたが、日本経済の活性化とより豊かな国民生活の実現に向けて、本年も精一杯頑張っていきたいと考えていますので、皆様方には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた大いなる発展の年となりますことを心より祈念いたしまして、年頭の挨拶といたします。